

大日本スクリーン製造株式会社 2012年3月期 第1四半期 決算説明会

2011年8月9日

専務取締役 CFO 領内 修

本日のアジェンダ

- ・2012年3月期 第1四半期連結業績 結果と分析
- ・事業環境
- ・2012年3月期 連結業績予想

資料取り扱い上の注意

・本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。

・本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

領内でございます。

皆さま、お忙しい中、第1四半期決算説明会にお集まりくださり、ありがとうございます。

本日は、

- ・2012年3月期第1四半期業績
- ・事業環境
- ・2012年3月期通期業績予想

につきまして、ご説明させていただきます。

注：各事業セグメントは文中では以下の略号にて表現しています。

- ・SE (半導体機器事業、以下SE) セグメント
- ・FE (FPD機器事業、以下FE)セグメント
- ・MP (メディアアットプレジジョンテクノロジー事業、以下MP)セグメント
- >>MT部門 (印刷関連機器、以下MT)
- >>PE部門 (プリント配線板関連機器、以下PE)

1 Q 連結業績結果

2012年3月期 1Q 連結業績結果

(単位：億円)	2011年3月期				2012年3月期		
	実績				実績	前四半期比	前年同期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	伸率	伸率
売上高	514	589	662	783	645	-17.6%	25.5%
SE	327	365	495	554	482	-13.1%	47.2%
FE	82	92	61	90	51	-43.8%	-37.9%
MP	103	130	103	135	110	-18.5%	7.4%
印刷関連機器 (MT)	89	106	92	116	95	-17.7%	6.9%
プリント配線板関連機器 (PE)	13	23	11	19	14	-23.6%	10.7%
その他(外部売上のみ)	1	1	1	1	1	-20.7%	13.9%
営業利益	46	63	75	81	62	-23.9%	33.8%
SE	49	61	88	81	68	-15.6%	39.3%
FE	6	0	▲5	▲0	▲7	-	-
MP	▲9	1	▲8	2	2	-28.0%	-
その他および調整額	▲0	0	1	▲2	▲1	-	-
経常利益	46	63	74	80	60	-24.9%	31.3%
純利益	38	57	77	83	47	-43.3%	22.3%

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

当第1四半期は、

売上高：645億円

営業利益：62億円

経常利益：60億円

四半期純利益：47億円となりました。

売上につきましては、期中における半導体メーカーの設備投資姿勢の急激な変化や、FPD機器の第2四半期以降へのスライドはございましたが、前期末の1,000億円を超える受注残高を背景に、高水準を確保することができました。

また、利益につきましては、前年同期、つまり前期の第1四半期と比べますと、人件費や研究開発費などの固定費は増加しましたが、売上が増加したことにより、営業利益が15億円、33.8%増加しました。一方、前第4四半期と比べますと、固定費は減少したものの、売上の減少により、営業利益が19億円、23.9%減少しました。

また、当第1四半期におきましては、保有有価証券の時価の下落により、投資有価証券評価損8億円を特別損失として計上しております。

なお、心配された東日本大震災による間接的影響ですが、当社サプライチェーンの修復が順調に進み、大きな影響を及ぼすまでには至りませんでした。

2012年3月期 1Q 連結業績分析

売上高

実績 645億円 ・ 前四半期 783億円 (前四半期比：137億円減少)

(単位：億円)

セグメント	1Q 実績	前期4Q実績	差異	差異のポイント
SE	482	554	▲ 72	・ NAND堅調。DRAM低調。ロジック、ファンドリーも減少。
FE	51	90	▲ 39	・ G8は横ばい。中小型が減少。
MP	110	135	▲ 25	
MT	95	116	▲ 20	・ PODは増加、CTPは減少。
PE	14	19	▲ 4	・ 直接描画装置、検査装置がともに減少。

営業利益

実績 62億円 ・ 前四半期 81億円 (前四半期比：19億円減少)

(単位：億円)

セグメント	1Q 実績	前期4Q実績	差異	差異のポイント
SE	68	81	▲ 12	・ 売上減少なるも利益率確保。
FE	▲ 7	▲ 0	▲ 6	・ 売上減少により赤字拡大。
MP	2	2	▲ 0	・ 固定費抑制、プロダクトミックス改善で利益率向上。

4

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD

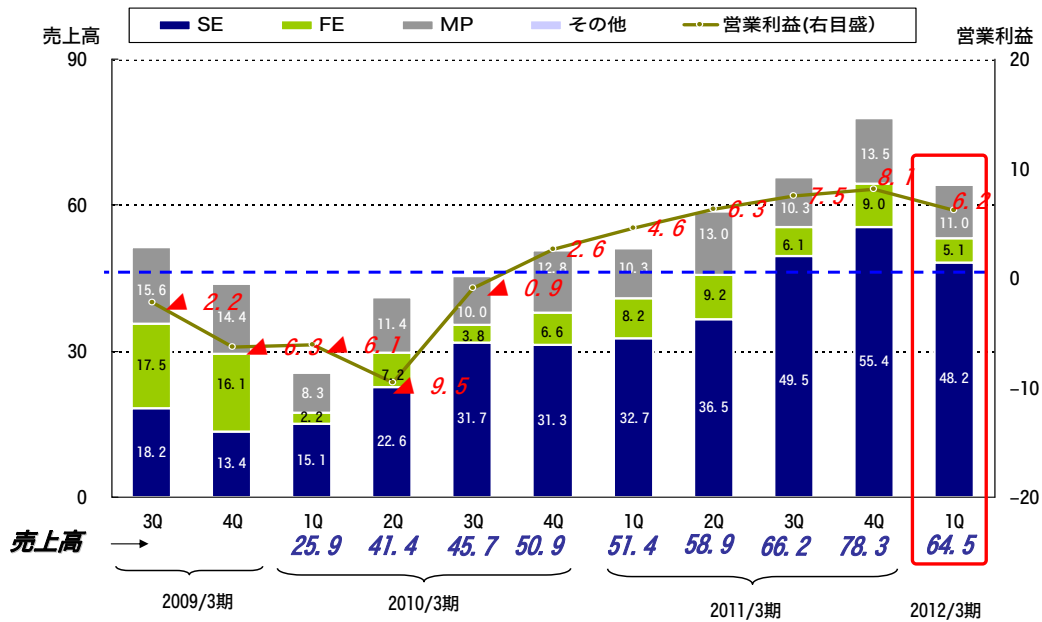
次に、各セグメント別の業績です。

SEセグメントにつきましては、DRAMは低調でしたが、ロジックやファンドリー向け、とりわけNANDフラッシュメモリー向けの売上は高水準で推移しました。ただし、非常に活況であった前第4四半期と比べますと、売上は減少となり、営業利益も減少しました。なお、固定費が少なかったこと、および変動費率が改善したことにより、売上の減少に比べ、営業利益率の落ち込みは大きくありませんでした。

FEセグメントにつきましては、中国向け第8世代装置などにおいて震災影響により出荷時期が第2四半期以降にスライドしたものがございました。また、低温ポリシコン用中小型向けの投資案件は少なかったため、低調に推移しました。利益につきましては、売上水準が低かったことなどより、営業赤字が拡大する結果となりました。

最後にMPセグメントにつきましては、印刷関連機器で、CTPは減少したものの、北米向けにPODが増加しました。また、収益面では前期から取り組んでまいりました収益構造改革計画による固定費の削減効果もあり、当該部門におきまして、営業黒字を継続することができました。また、プリント関連機器では、第4四半期に比べては売上は減少しましたが、直接描画装置や外観検査装置は堅調に推移し、前四半期に引き続き、営業黒字を確保することができました。

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)

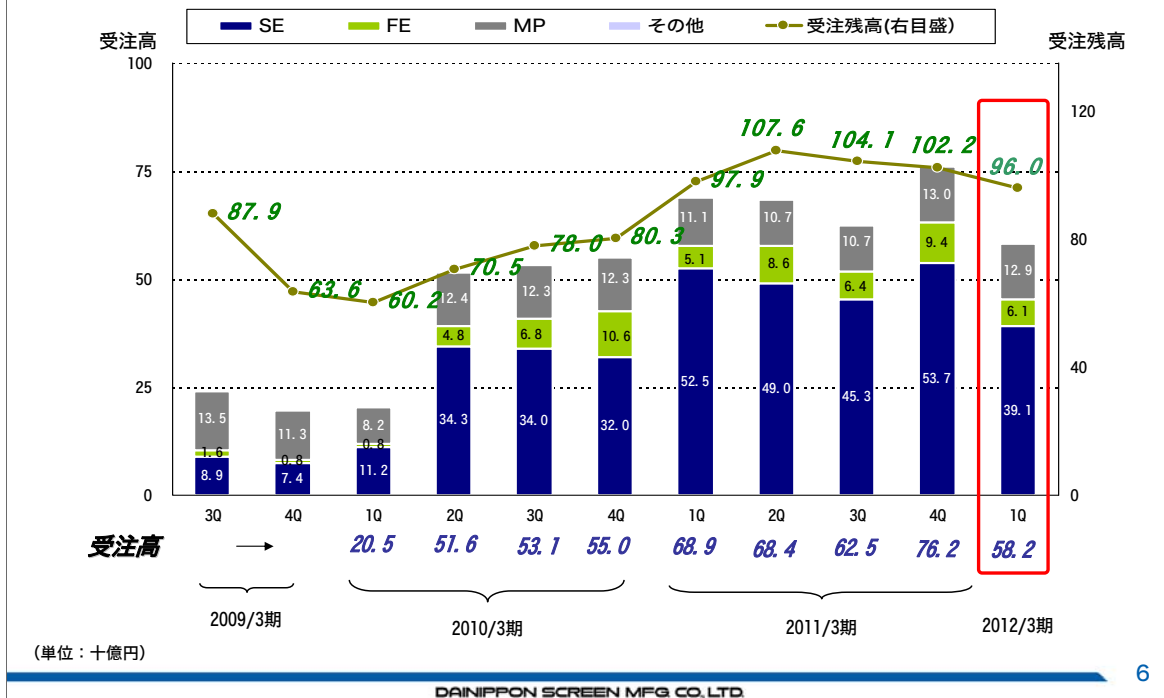


(単位：十億円)

このグラフは、全社の売上高と営業利益を示したグラフですが、各セグメントにてご説明しましたとおり、前第4四半期に比べますと、売上高は、SE、FE、MPの全てのセグメントで減少しております。

また、これに伴い、営業利益につきましても、コストダウン活動は継続したものの、この折れ線グラフが示すように、減少しました。

受注高・受注残高 四半期推移（連結）



このグラフは四半期ごとの受注高・受注残高をセグメント別に表示したものです。

第1四半期の受注額は、全社で582億円となりました。SEにおきましては、ファブリーやメモリーメーカーなどの半導体メーカーの投資姿勢が急激に慎重になり、当四半期受注高は391億円と前四半期に比べ27%の下落となりました。

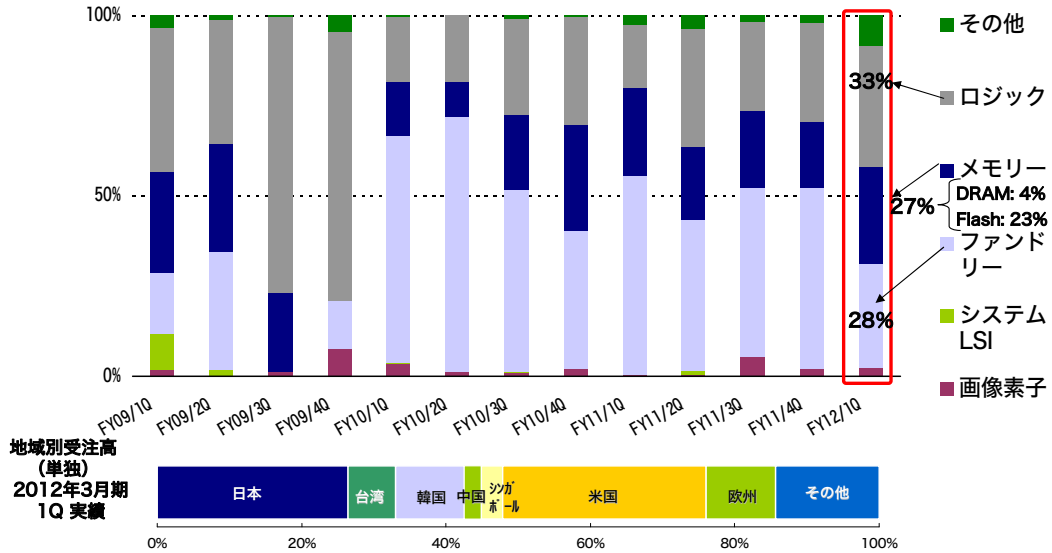
また、FEにおきましては、大型向けの投資は低調でしたが、LTPS（低温ポリシリコン）用の中小型向け製造装置の受注は堅調に推移し、61億円となりました。

MPにおきましては、印刷関連機器は、例年ですと第4四半期に比べて減少する第1四半期ですが、当第1四半期におきましては、PODの大型商談の受注により高水準を維持することができました。また、プリント関連機器も堅調に推移しました。つきましては、MPセグメントの受注高は129億円となりました。

これらの結果、6月末の受注残高は、960億円となりました。

<SEセグメント> デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

➢ 1Q受注高 : 391 億円 (連結)



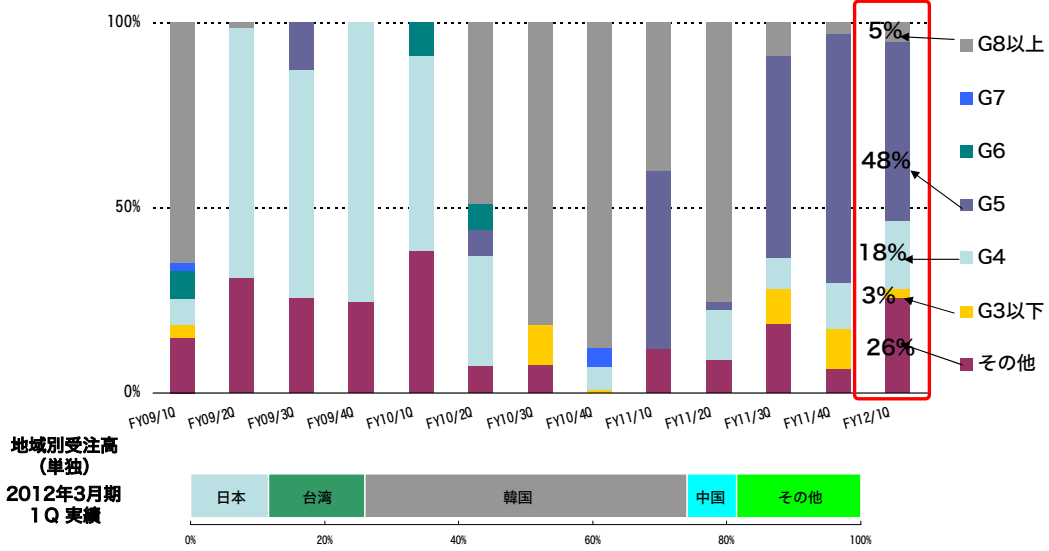
次に受注の内容に関しまして、SEセグメントにおける半導体のデバイス別の受注比率では、第1四半期は、今まで牽引してきたファブが減少しました。

その結果、第4四半期とほぼ水準で推移したメモリー、ロジックの比率が相対的に上昇しました。

なお、2012年3月期の第2四半期受注見通しにつきましては、半導体メーカーが、投資に対して慎重姿勢を継続することが想定できることから、第1四半期から減少すると予想しております。

<FEセグメント> 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

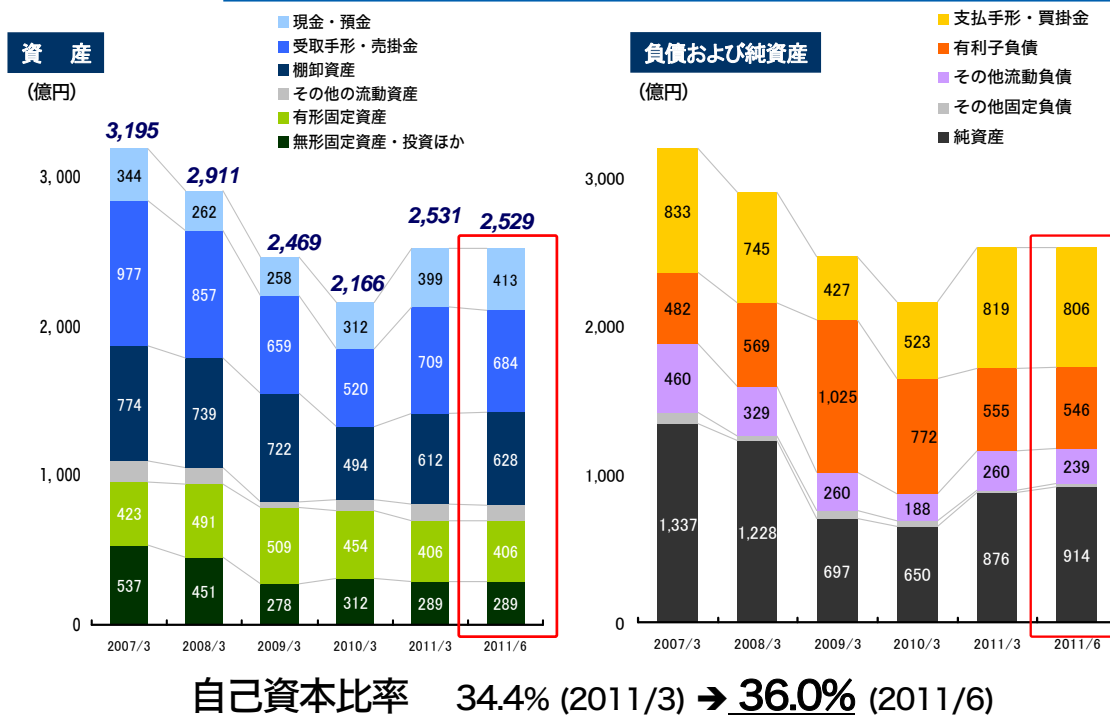
>1Q受注高 : 61 億円 (連結)



FEセグメントの受注内容につきましては、第1四半期は、前第4四半期に引き続き、テレビ向け大型パネル向けの受注は低調でしたが、中小型向けLTPS向けコーターデベロッパーは堅調に推移しました。

2012年3月期の第2四半期の受注に関しましては、第1四半期に比べ、若干の減少を予想しております。

貸借対照表 (連結)



DAIIPPON SCREEN MFG. CO. LTD.

9

次に貸借対照表につきまして、ご説明いたします。

資産の部におきましては、たな卸資産および現金・預金が増加しましたが、受取手形・売掛金などが減少したことにより、資産合計は前期末に比べて、2億円減少し、2,529億円となりました。

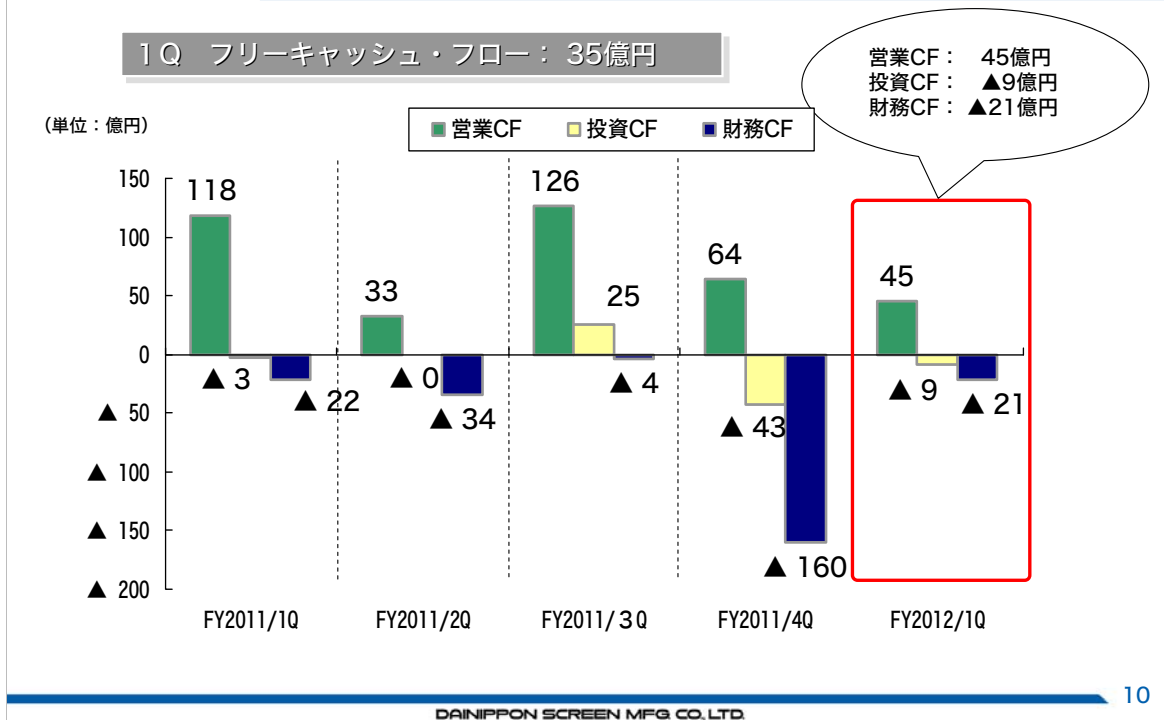
負債の部におきましては、支払手形・買掛金、未払法人税等が減少しました。また、有利子負債に関しては、前期末から9億円減少し、546億円となりました。

純資産合計は、配当金の支払による減少はありましたが、四半期純利益の計上などにより、914億円と前期末に比べて、38億円増加しました。

また、自己資本比率は、前期末に比べ1.6ポイント改善し、36.0%となりました。

今後も自己資本比率のさらなる向上に取り組んでいきたいと考えております。

キャッシュ・フロー（連結）



次にキャッシュ・フローの状況です。

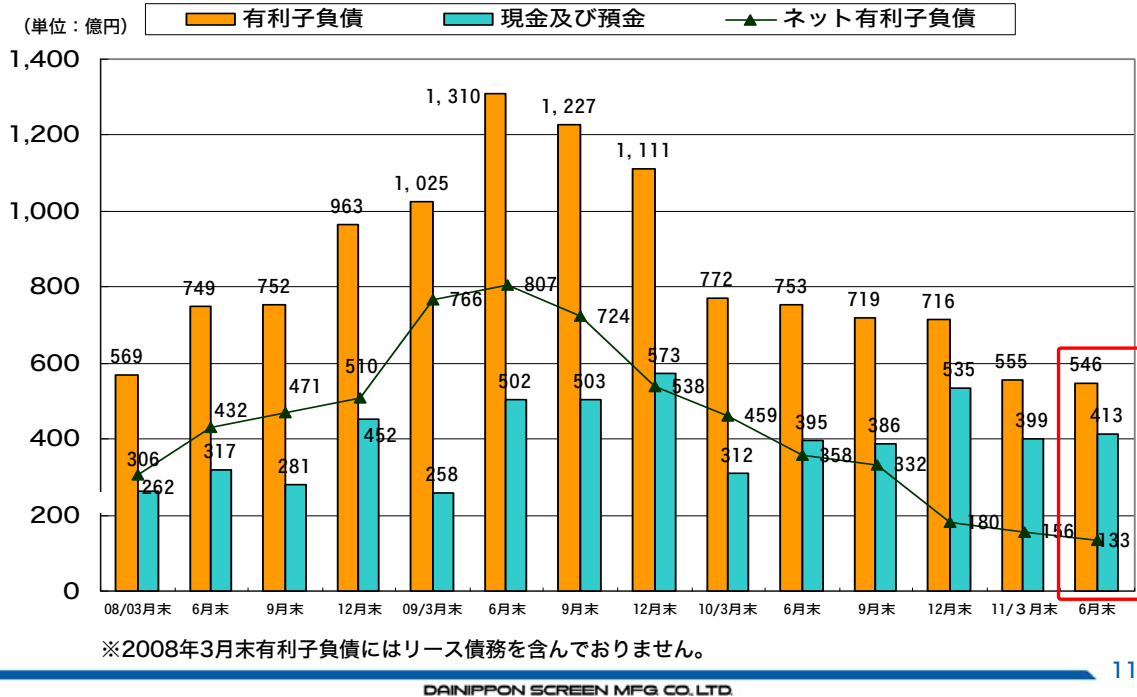
営業活動によるキャッシュ・フローは、税前四半期純利益、減価償却費、売上債権の減少などの収入項目が、たな卸資産の増加、仕入債務の減少、法人税等の支払などの支出項目を上回り、45億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより、9億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払やリース債務、短期借入金の返済などにより、21億円の支出となりました。

なお、フリーキャッシュ・フローは35億円となりました。

有利子負債推移(連結)



これらキャッシュ・フローにより、当第1四半期末（2011年6月末）の現金及び預金は413億円となりました。

有利子負債から現金および預金を除いたネット有利子負債は133億円と、前期末から22億円削減が進みました。

引き続きキャッシュ・フローを捻出し、さらなる有利子負債の圧縮に努力してまいります。

事業関連

SE

1Q総括

- ・半導体市況の停滞により、ファブドリー、メモリーメーカーなどが設備投資計画を見直し
- ・売上は、一部にスライドはあったものの、高水準を維持
- ・受注は、期初想定の下限
- ・枚葉式洗浄装置SU-3200のプロセス評価が進み高評価を得る
- ・コーターデベロッパに関しては競争激化

2Q以降の展望

- ・ロジックは堅調
- ・一部NANDメーカーを除き、メモリーは価格下落のため量産投資低調
- ・ファブドリーは在庫調整のため、2Q（7月～9月）は投資に対して様子見を継続
- ・各社は微細化に向けたR&D投資は継続
- ・投資が活発な画像素子、パワーデバイスへ販売注力
- ・研究開発投資は継続するものの、経費削減、コスト削減は一層強化

まずはSEセグメントです。

半導体市況の停滞より、期中におきまして、ファブドリーやメモリーメーカーなどが投資計画を見直しております。

しかしながら、当第1四半期の売上に関しましては、一部で売上スライドはあったものの、482億円と高水準を維持しました。

一方、受注に関しましては、想定以上の設備計画の見直しにより、期初想定しておりました受注ガイドライン下限額の400億円を若干下回る391億円となりました。

なお、新製品であるSU-3200に関しましては、お客さまでの評価が順調に進み、高い評価をいただいております。（第1四半期のSU-3200の売上は、枚葉式洗浄装置全体の約5%程度）また、SOKUDO社が取り扱っているコーターデベロッパにつきましては、競争が激しくなっております。

今後の展望につきましては、ロジックメーカーは堅調な投資が続くと予想されるものの、メモリー分野につきましては、一部のNANDメーカーを除き、量産投資に関して低調となっております。また、ファブドリーにつきましては、第1四半期に続いて、第2四半期も投資に対して様子見姿勢が継続される見通しです。

このように半導体メーカーの投資計画が急激に変化しており、今後の状況に関しましては、予断を許さない状況となっており、先行きは極めて不透明となっております。

しかしながら、半導体メーカーは、2Xnm、さらには1Xnmに向けた微細化投資は継続し、最先端において高評価を得ているSU-3200の引き合いは増加すると期待しております。また、投資が比較的コンスタントな画像素子、パワーデバイスには注力してまいります。

引き続き、市況が急速に変化している中におきましても、研究開発は手綱を緩めず、継続して行っていく予定でございます。

FE

1Q総括

- ・ 中小型向け低温ポリシリコン（LTPS）投資は引き続き堅調
- ・ TV向けの大型基板用装置の投資は低調。受注済の中国での投資が中心
- ・ OLED向けノズルプリンティング装置は評価用装置の受注獲得

2Q以降の展望

- ・ 液晶装置分野での収益性改善
（中国調達促進、VE活動などによる変動費削減および固定費抑制）
- ・ OLED用ノズルプリンティング装置のパイロットライン受注活動継続
- ・ 保有技術の応用展開できる成長分野への注力は継続
（太陽電池関連機器、リチウムイオン電池製造装置）

FPD事業につきましては、テレビ用の大型ガラス基板対応の設備投資は、現在進行している中国が中心となっており、他の案件が具体化するまでは、少し時間を要すると思われれます。一方、低温ポリシリコン向けの投資は堅調に推移しております。

また、OLED向けの当社ノズルプリンティング装置は、お客さまでの評価用装置の受注が確定し、実用化に向けて進捗しております。

主力のLCD向け投資案件数が限られており、厳しい状況において、中国調達の一層の促進や、VE活動を通して、変動費率を引き下げるとともに、固定費の削減にも取り組んでまいります。

一方、ポスト液晶として掲げております、OLED、PV、リチウムイオンバッテリーの関連機器の新分野におきましても、早く成果が出せるよう、取り組みを強化してまいります。

MP

1Q総括

【MT】

- ・固定費抑制およびプロダクトミックス改善により営業黒字確保
- ・日米欧では、経済停滞により印刷機器の投資回復が足踏み状態
- ・中国、インドなど新興国でCTPの出荷台数は堅調に推移
- ・PODは、日欧米以外でも市場拡大基調。商業印刷以外の分野で大型商談を受注

【PE】

- ・検査機器は、アジアでの受注増加
- ・高精細PCB用に直接描画装置も引き合い増加

2Q以降の展望

【MT】

- ・8月に中国CTP生産工場の増床工事完成。下期より本格稼動し新興国の需要に対応
- ・PODは、大型商談の確定により、引き続き堅調に推移
- ・新興国での商談増加ならびに円高傾向が続くと見込まれ、さらなるコストダウンに注力

【PE】

- ・PCB用直接描画装置において高生産機を投入予定
- ・台湾、中国顧客中心に重点的に販促

次にMPセグメントです。

印刷関連機器は、従来より取り組んできました収益構造改革計画による固定費削減や、プロダクトミックスの影響により、第1四半期も営業黒字が継続しました。

日本や欧米の先進国では、景気減速の影響により印刷機器への投資は少し足踏み状態となりましたが、中国やインドなどの新興国では堅調な状況が継続しました。

当社では、CTPは新興国にて堅調に推移しました。また、PODにつきましても大型受注を獲得するなど、好調に推移しました。

今後の展望といたしましては、ラインアップを充実したPODは、今年9月に東京にて開催される世界4大印刷機材展のうちのひとつである

「IGAS」におきましての受注増加を目指してまいります。

また、CTPに関しましては、中国の生産子会社の増床工事が8月で完成し、下期から本格稼動いたします。中国への生産移管を行い、コスト削減を進めてまいります。

プリント配線板関連機器は、当第1四半期は、検査装置に加え、直接描画装置が堅調に推移し、前第4四半期に続き、営業黒字を維持しました。今後におきましても、処理能力が高く、競争力のある直接描画装置を市場投入し、この分野の売上拡大を図ってまいります。

連結業績予想

続きまして、業績予想に関しまして、ご説明いたします。

2012年3月期 連結業績予想

想定為替レート: 1\$=80yen, 1€=110yen

(単位: 億円)

(単位: 億円)	2012年3月期						2011年3月期							
	上期			下期			通期		実績					
	5/10予想	今回予想		5/10予想	今回予想		5/10予想	上期: 今回予想						
売上高	1,380	1,320		1,420	5/10予想 見直さず		2,800	2,740	2,549					
SE	990	935		920			1,910	1,855	1,742					
FE	155	137		255			410	392	327					
MP	232	201	245	214			241	209	473	410	486	423	473	404
		31	31	32				63		63	68			
その他(外部売上のみ)	3	3		4	7	7	6							
営業利益	125	105		135	260	240	268							
経常利益	120	100		130	250	230	265							
当期純利益	110	90		120	230	210	256							

今回、下期業績予想は見直さず、5/10発表予想を据え置き。
通期予想は、上期修正のみを反映

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

17

DAIIPPON SCREEN MFG CO. LTD.

本日、第1四半期決算発表と同時に発表いたしました上期業績予想の修正に関しましてご説明いたします。

セグメント(P13-15)でご説明いたしましたとおり、期中における半導体メーカーの投資姿勢の急激な変化によりSEセグメントにおきまして売上高を55億円の減額しております。また、FEセグメントにおきましても液晶製造装置などの下期へのスライドによる減少を見込み、売上高を18億円減額しております。一方、MPセグメントでは、PODの大型受注などを背景に、13億円増額しております。

従いまして、全社での上期売上予想は、5月期初1,380億円から60億円減額し、1,320億円に変更しております。

また、これに伴い、

営業利益は、125億円から105億円に、

経常利益は、120億円から100億円に、

当期純利益は、110億円から90億円に

それぞれ変更しております。

なお、通期業績につきましては、半導体メーカーによる設備計画見直しの動きが顕著になり、加えて、世界経済の先行きに不透明感が増すなど、今後の事業環境を見極めることが極めて困難なことから、現段階では、下期予想は5月10日発表の予想を据え置き、上半期の修正のみを反映させていただきます。

事業関連

<SEセグメント>

- ・ デバイスメーカーの設備投資動向に変化
- ・ 受注回復時期を期初時点比1Q~2Q遅れを想定するも、不透明

<FEセグメント>

- ・ TV用大型基板の投資は低調だが、LTPS向けは堅調継続

<MPセグメント>

- ・ PODは大型受注が牽引し、堅調に推移
- ・ CTPは新興国市場向けにさらなるコストダウンを推進

経営課題

- ・ 既存製品群における変動費率改善
- ・ 製品競争力の強化による 利益率向上
- ・ 中期3カ年経営計画の推進
(新規分野への投資継続)

最後に、まとめでございます。

SEセグメントに関しましては、受注回復時期が、期初想定から1四半期から2四半期程度の遅れは想定されるものの、まだまだ不透明な状況は否めません。

FEセグメントに関しましては、大型ガラス基板装置への投資は低調ですが、LTPS向け中小型向けの投資は継続するものと考えております。なお、PVなどの新規分野の立ち上げに関しましては、継続して進めてまいります。

MPセグメントに関しましては、PODの大型受注により、堅調に推移するものと考えております。

半導体の急激な事業環境の変化に対応すべく、既存製品の変動費率の改善を加速させ、収益を確保するとともに、新たな成長に向け、新規分野への注力を進め、中期計画の達成を目指してまいります。

今後とも、ご支援、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。